

地理基礎ワークシート (秋学期中間考査) No. (現地化ふり返り)

() 月 () 日 ()
 4年 () 組 番号 () 氏名 ()

主 題	[グローバル化]現地化(ローカル化)
ねらい	南アジアとサブサハラの類似性や対照性を活かし、グループで協力して現地化する。 南アジアとサブサハラの比較をふり返り、学んだことの意味に気付く。

④これからの日本と南アジア・サブサハラ諸国の関係について、これまでの学習を参考に100字程度でまとめなさい。

→ 現地化は、かなりその土地やその国の情報や状況に
 対して知らなくてはならない。実際に現地まで行くもの
 だけでは意味を持っているのかということも考えなければ
 物だとしても、これがただ流行せずに終わってしまうもの
 だとも思いました。でも難しいからこそ本当にその土地に合った
 ものだと必要とされたり流行するのはないかと思いました。
 自分たちの利益だけを考えるのではなく現地の人にとけ込
 むことができるのかということも大事にしているものだと
 思いました。

→ 各々の国の情勢や気候、習慣、文化、宗教などを
 学び、思いやりのある、現地の人たちにとり安全で使いやす
 いものを考えることが大切だと思ふ。短く高くと、愛を持って
 お互いの国へのことを考えることが現地化であると思ふ。
 現地化する上で、どちら側への一方的なものではなく、
両者にとりいいと思ふことを精一杯いかにすることが
大切だと思ふ。私たちが授業の中で十分に現地のこと
 理解することができず、現状をよりよく提案するべきだと
 思ふことがあり、その改善し、自分たちが開拓する
 べき影響が与えらる評価 (A・B・C)
 ふり返り ようなことを考えることが大切だと思ふ。

→ 現地化、というワードの中で、一番大切にして
 (その土地に現地の人の気持ちに合った考えを)
 思いやりを込めて考える。もちろん、現地のこと
 考えたいものか人気になる訳ではないから。現地の
 人々を思いやる上で最も重要なことは、日本(思いやり側)
 が、思いやりを傾ける側に対して自身の当たり前を、押し付けな
 ことにあると考える。何故なら、自身の当たり前は「いつも相手の
 当たり前」と思ふのは間違いだからである。
 現、現地化する上で十分な現地調査が必要不可欠である。

→ 国のことを知り、想像をふくらませてその
 国で使うと便利になるかを考えを具現化していくこと。現地化
 しているかどうか確かめるためにその国に行けるわけでもない
足跡の中でリアルな声を出していくことが大切だと思ふ。また、
 気候や状況が似ている場所が実際に便利だと思
 われているものをヒントに考えるのも視野を広げられて
 現地化に対してできるのでは無いかと思ふ。一番は、他人
 事だと思わずにどれだけ思いやりを持っていかか大切
 だと思ふ。

→ 自国のものを他国に取入れたいという思いがある
 だが、安易に現地化するのではなく、実用性や
 需要を考慮することが大切だと思ふ。他にも、気候
 や地形、言語や宗教に合わせた考え方が大切
 である。だが、一番大切なのは、現地の人にとけ込
 むことができる、互に相手国を思いやるという気持ち
 である。相手のことを一番考えることが「現地化」
 だと思ふ。

→ これらの商品を開発する上で現地化に近づけ、その
 毛に限定するのは、人がその土地に合った性格や生活
 文化に合った商品を開発し、その土地に合った問題や
 文化に合った精神面での現地化も大切だと思ふ。

→ 自達は今回やったのは、ローカルな市場、ただの商品開発。
 (だから、その土地に向けた商品を作るということ) → その土地に向けた
 商品は現地化ではない。

→ 自達、この現地化を、地球に近づけること
 ではなく、商品を作るというのではなく、その地
 域に合った商品を作る商品を作る。また、
 現地の人が無理なく買えるように加えるよ
 価格を下げたり、自分自身も買えるように
 商品を作る。結論として現地化を成功させるには利益
 だけではなく「倫理」が大切だと思ふ。

→ まず、相手の国のことを明確に知ることが大切だ。
 金銭的なこと、気候的なこと、もちろん「宗教」、それだけ
 なく、私生活のこと、運転時のルールであったり、その状況
 をもとに把握しておく必要があると思ふ。日本の価値観
 をもとに商品を作ると、必ず、現地に合わない部分が出
 てくるので、相手の考えをもとに、作っていくことが大切だと思ふ。
一番大切なのは、現地での生活することだと思ふ。
 また、私生活での現地化は、相手の価値観や状況
 把握して、その生活に合わせた商品を作ることが大切だと思ふ。

ご参加いただきありがとうございます。また、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

本時は現地化（商品開発）のプレゼンテーションを本物のオーディエンスに評価され、その評価をふり返り、共有する過程を通して、現地化そのものに対する自分の考えを表現する授業でした。

社会的な見方・考え方や主体的に学びに向かう力・人間性など授業で具現化しにくく、また、評価しにくい部分を授業化し、評価の対象としたつもりです。

現地化はコストの視点を持っているうちは、本当の現地化にはならないのではないかと考えています。地理という科目を学習することで、日本を含めた地球全体に関心を深め、実際に身近な地域を離れた場所で生活してみようと思えて初めて、本当の現地化に近づくはずですが、しかし、現実的には誰もが身近な地域を離れて生活することができるわけではありませんので、頭の中でのリアリティに少しでも地理の学習が貢献する必要があると思います。そうすることで、住んでみて、生活してみて、「自分にとって」本当に必要な現地化を構想できるようになると思いました。

地理を学習することとグローバル(化)の概念をつなぐ学習としての教材として現地化を選んでみました。この現地化の単元を踏まえ、グローバル(化)の単元の2つ目として、日本はどの地域と地域共同体をつくれれば良いのかという主題に取り組みます。どのような地域共同体が生まれるのか楽しみです。

また、ご意見などいただけると助かります。今後ともよろしくお願ひいたします。